

石原秀男先生を悼む

石原秀男先生は2015年9月19日に逝去されました。

享年54歳、謹んでご冥福をお祈りいたします。

石原先生は1992年に経営学部の講師となられ、経営学部助教授を経て2001年新学部設置に伴いネットワーク情報学部教授となられました。1997年以降専修大学の長期構想委員会の委員として、大学のあり方や新学部等について幅広い見地からご提案なさっておられました。1998年秋には、複数の新学部設置が必要で、まず経営学部情報管理学科を独立させて21世紀にふさわしい情報系の学部にしていくことが決まりました。石原先生は「専修大学改革の起爆剤となる」と表現されていました。

それ以降、具体的な新学部のための申請書類の作成、教員と開設科目、その科目概要の記述まで膨大な作業は、基本的には石原先生と松永先生と学長室が担当しました。故高津先生が学部長予定者としてそれを支えました。3年次までに基本的に学修を完結すること（当初は3年間で全単位取得が可能でした。4年次前期の就職活動前に終了させるためです。演習中心の学部とするためやむを得ない措置でした）、セメスタ制で半期が基本の機動的な授業とすること、1年次に28単位の必修科目を置き基本的なスキル体得を徹底すること、数的推理とその演習など基本的な能力開発をすること、情報管理学科教員が担当可能な情報ストラテジーコースとネットワークシステムコースに加え、ネットワーク上の情報自体を扱うコンテンツデザインコースを設けること、2年次に各コースの演習を徹底するために通年8単位の総合演習を設けること、3年次にはそれらの専門を超えて何か成果物を生み出すプロジェクト（通年4単位だが、総合演習並みに運用する）を横断的に学生アイデア中心で行うこと、これらネットワーク情報学部の根幹となるすべては石原先生の発案と言っても過言ではありません。

石原先生はリアリストでした。情報処理技術は爆発的に領域が拡大し内容が進化しつつあります。そのどれかを徹底的に履修させても不十分に終わり今後役立つ人材となる保証はありません。幅広くいろんなことに触れるカリキュラムは、情報に関するリベラルアーツともいえるべき今後不可欠な内容をめざし、それ以上に学びたい学生には他大学大学院進学も可能とするようにするという判断です。「プロジェクトは半分遊びでもいい、培ったスキルを自分の問題意識で使ってみる機会とする（そのプロセスで異なるスキルの者同士のコミュニケーションを図る）ことが主目的」という趣旨のご意見をお伺いしたこともあります。最も技術者教育に関心ある立場でありながら、学生のモチベーションの維持や自己教育力育成を常に見据えていたのだと思います。

そして、本学部創成期には、必要な科目でも担当者がいない科目などの多くを発案者である石原先生ご自身が引き受けていらっしゃいました。10コマ以上になることもあったご負担をおかけしたことは悔やまれてなりません。体調から学部長就任を固辞されていましたが、歴代の学部長は「石原先生ならどう考えるだろうか」が判断基準の一つであったことは間違いありません。今後も遺志を引き継いでいくことが追悼の途と考えています。

2016年1月6日

ネットワーク情報学部長 江原 淳